

令和5年度第2回すみだタウンミーティング 実施報告書

テーマ

すみだ若者タウンミーティング

実施日時・会場

(1) 事前ワークショップ

- ・令和5年11月29日(水) 午後7時00分～午後8時45分
- ・墨田区役所 131 会議室

(2) タウンミーティング

- ・令和5年12月13日(水) 午後7時00分～午後8時45分
- ・リバーサイドホール イベントホール 及び オンライン配信

対象者

墨田区に興味関心のある15歳～30歳
当日のオンライン視聴は年齢要件なし

参加人数

- (1) 事前ワークショップ 37名
- (2) タウンミーティング 35名 + オンライン視聴者10名

事前ワークショップ実施概要

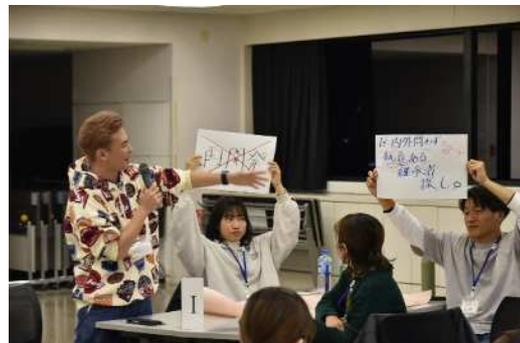
- (1) アイスブレイク
- (2) グループワーク

墨田区が50年後も住みたいと思える場所になるために必要なことは？

そのために墨田区役所に提案したいことや、地域の一員として、自分たちでやっていきたいことは？

- (3) 7つの提案づくり

「墨田区が50年後も住みたい場所となるための提案」を作り、タウンミーティング当日(12月13日)に区長に提案するものを投票し、7つ選定する。



タウンミーティング当日実施概要

- (1) プレゼンテーション準備
- (2) 7つの提案についてのプレゼンテーション

50年後も住み続けたいまちにするための「7つの提案」

古いものの良さを残した“新開発”のまちづくり

下町らしい雰囲気なくなり、今まで作ってきたものを否定するような“再開発”のイメージを払拭するために、“新開発”という言葉を作った。“新開発”には、今まで良かったものはより良くし、今までいまいちだったところは、少しでも良くできる新しい試みをしていこうという思いを込めた。“新開発”をする中でも、街の人が主体になって一緒に考えていくことを重要視していきたい。

若者活躍のための団体設立と活動支援

学生や若者が活躍しやすくなる支援制度を、団体設立とサポートの2つの面で提案する。タウンミーティングの参加者は、様々な団体に所属しているが、それぞれをつなげる団体がないため、交流会を開く団体を設立したい。

また、区では様々な活動支援が整っているが、区民でないと活用できないものが多い。墨田で多くの若者が活動できるように、区民以外でも活用できるサポート制度を作してほしい。

すみまるくんをもっと使いやすく

すみまるくんは、ルートが固定されている、狭い場所で運行できない、逆ルートが無いなどの課題があるため、2点提案する。

1つ目はAIを利用したバス。複数の利用者が設定したルートをAIが自動で計算して、その最適なルートを走るというもの。2つ目がグリースローモビリティの導入。狭い道にも導入でき、交通の空白地域も解消できるし、ゆっくり走る車なので車内で利用者同士の交流が期待できる。

50年後もタウンミーティングを続ける

区長の目の前で意見を言える機会はなかなかないし、時代は移り変わるため、続けていくことが大事。より多くの人を取り込むために二つの提案をする。1つ目は申込みしやすくするために、イベントページLPを作る。2つ目は、前回の様子をInstagramで発信する。参加者の中から実行委員を募り、50年続けられる仕組みづくりをしたり、多くの年代を巻き込んだタウンミーティングにしていけるとよい。

若者が利用しやすいフリースペース

押上や曳舟のエリアに低予算で利用できる若者中心のフリースペース、コワーキングスペースを提案する。コワーキングの仕事的な部分と食べ物を食べる交流部分をかけ合わせたスペース。学生や若者が学習、就活に利用できる個室スペースと、交流するスペースを作っていきたい。また、商店街とコワーキングスペースが連携できるとよい。

空き家を活用した多世代交流の場 すみだのおうち

多世代のつながりの場をつくりたい。放課後一人で過ごす小学生や不登校の子ども、お年寄りなどが、気軽におうちのような感覚で集まり交流ができる場所があれば、それぞれにとって新たな

な居場所となる。また、小中学生など、そこを利用した人たちが将来的にそこに還元したいという気持ちになって、手伝いなどもするようになれば、墨田区が今よりもっとよりよく明るいまちになると考える。

町工場をまもる + 文化の継承

町工場は、墨田区の特徴であるが、後継者がいないという課題がある。まずは、町工場を知ってもらうために、中高大学生向けに町工場のインターンシップをしたり、ものづくりに触れる機会を増やすと良いのではないかと。町工場の人やものづくりを通じた交流で、若者に町工場を知ってもらうと良い。また、人をつなげるほかに、文化の継承にも引き続き取り組んでいただきたい。町工場には、経営と技術力の両方が必要であるが、経営については、“町工場法人連合”のようなものを作って、一体的に取り組めるとよい。

